

## 7月のハイライト

ご覧のように今月から内容の目次が、大陸別から、ニュース、研究、植物育種技術の革新、作物バイテク以外などの項目別になった。

ニュースの項では、ゲノム編集作物の一般市民の受容性についてのリスクアセスメントの影響を調べたところ「伝統的作物と遺伝子改変作物との間の規制・監督の比較を示している。政府当局は、その優れた安全記録のために伝統的な作物を評価することはめったにない。一方、遺伝子改変作物に関しては、厳格な規制・監督が消費者の受け入れを促進すると示唆している人もいる。しかしながら、これは、厳しい規制が一般市民の GM 作物の受け入れの不信を招いた歴史的な可能性があることを示しており、GM 作物が危険であるとの考えを招くことになった。しかし実際には、リスクは伝統的作物のリスクと同じである。そこで、著者は、リスクと不均衡な規制が一般市民の恐れを検証と不信をかもしていることが安全な技術への不信につながるかどうかを調査した。」これは、これからの調査のやり方や広報のやり方の参考になるものである。その結論にある「教育とアウトリーチは、有益な技術の一般市民の支持を得るための政府の有用なやり方であることを強調している。ただし、これらの取り組みは、テクノロジーに関するすべてを知っているとすでに考えている一般市民ではなく、新しい情報を検討したいと思っている一般市民を対象とした場合に最大化の効果が上がるとしている。信頼できる情報源からの事実を伝えるコミュニケーションも、ソーシャルメディアを通じて一般に広まっている誤った情報を訂正する上で重要であると強調されている。」との記述は重要な示唆に富んだものである。

植物が気候変動に適応するのに役立つ遺伝子を同定、改定カカオ基準ゲノムによってチョコレートの将来を保証、育種家が最良の形質を選択できる新しいソフトウェアなど多くのニュースが満載されている。

研究の項では、苦瓜からイネ紋枯病耐性遺伝子を発見、初のゲノム編集ダイズの出現を新 CRISPR フードとして歓迎の記事に興味をひかれた。

作物バイテク以外では、米国で新たに孵化した遺伝子組換えサケが展示されている、遺伝子組換え酵母で作った乳タンパク質で作ったアイスクリームが完売など興味ある記事があった。

最後に、有機農法における CRISPR-CROPS については？の記事に興味を惹いた。ゲノム編集では突然変異とは全く変わらない結果を生む育種法であるから米国有機規格委員会はずべてのゲノム編集作物を有機認証から除外することを決定しましたが、ゲノム編集がこの決定を再検討する機会をもたらす可能性があると認める有機農家もいるのは当然である。有機農法に新しい科学の進歩を取り込んでも何ら問題がないように思われてならない。